

群 教 セ	F 09 - 01
	平 17. 231集

全職員による組織的な教育相談 (生徒指導) 体制の充実を目指して ——心に悩みを抱える生徒への指導・支援の工夫を通して——

特別研修員 林 崇夫 (川場村立川場中学校)

《 研究の概要 》

本研究は、心に悩みを抱える生徒の早期発見・解決のため、校内の組織的な教育相談（生徒指導）体制づくりをシステム化することを通して、全校生徒が明るく楽しい学校生活を送るために活力ある学校風土を形成することを目指したものである。今年度よりスクールカウンセラー（以下SCと記す）が本校に配置されたのを機に、ほっとルームを拠点として、全職員で学校教育活動全体を通して効果的に援助・指導することを試みたものである。

キーワード 【教育相談 ほっとルーム 心の悩み 情報の共有 人間関係の構築】

I 主題設定の理由

本校は、1村1校で全校生徒120名の小規模校である。本校の生徒は全体的に素直かつ純朴で落ちついた学校生活を送っている生徒が多い。本学級のほとんどの生徒は、幼稚園から小学校、中学校へと長い間同一校の集団で過ごしているために互いの気心がよく知れていて仲もよい。反面、部活動や趣味を中心に、友人関係が固定されてしまい発展がみられない。新たに、友人関係に広がりを見せようとした時や、自分の新しい面を發揮しようとした場合など、それを抑えてしまう言動もあり、ますます閉鎖性が強くなってしまふ生徒の現状がみられる。

また、職員の生徒への対応は、担任を中心とした該当学年に任せてしまっている傾向にあり、学校として組織的な対応は十分とは言えない。特に、不登校傾向にある生徒に対する対応は、担任が個々の立場で対応したり、援助したりしているが、学校として役割分担が不明瞭なところもあり、しっかりとした連携が不十分であると考えられる。

このような学校の現状から、特に心に悩みを抱える生徒を早期発見し、早期対応するには、生徒の現状把握の調査や教師間の情報の共有としての連携などが不可欠である。これらの点を充実させていくことが、本校には必要であると考えられる。

本研究は教師側から生徒への組織的、積極的にかかわる方策を考えることはもちろん、生徒とクラスメイト、職員同士、家庭と学校などの相互の

関係を密にし、特に、生徒を取り巻く人間関係を向上させていくことが大切である。心に悩みを抱える生徒を支援していくために、一つのチームとして相互のコミュニケーションを深め、全職員がスクラムを組んで協働意識を高め、生徒に接していくことが、活力ある学校風土を構築するために必要な手だてと考え、本主題を設定した。

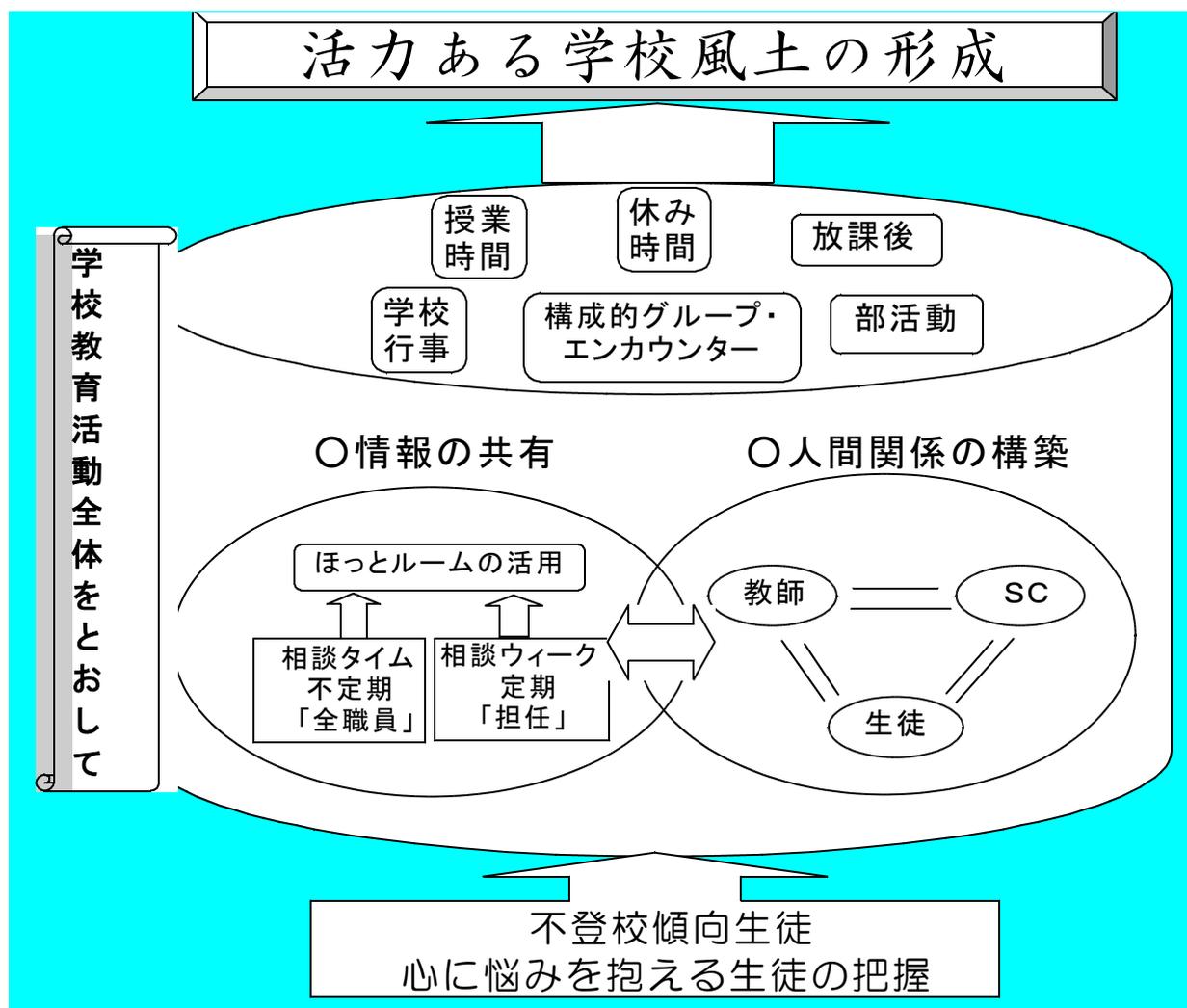
II 研究のねらい

心に悩みを抱える生徒への指導・支援の工夫を通して、全職員による組織的な教育相談（生徒指導）体制の充実を目指し、活力ある学校風土の形成をねらいとする。

III 研究の見通し

- 1 生徒指導委員会や教育相談部会を通して、関係職員で本校の生徒の現状についての共通認識をもち、企画、運営を行う。
- 2 ほっとルームの活用の中で、職員同士の情報提供や共有、生徒の悩みの相談などを行う。
- 3 本校の特色（全教諭が全校生徒に授業を行うメリット）を生かし、チームとして全職員で組織的な指導・支援を行う。
- 4 構成的グループ・エンカウンターを担任により、学校行事やクラスの実態に合わせ実施する。上記のことに努めていく事で、学校教育活動全体を通して、活力ある学校風土の形成が構築されるであろう。

図1 全体構想図



IV 研究計画

生徒及び教職員が「ほっとルーム」を活用することで、悩みなどの解決や、個々の生徒の指導・支援、学級経営への援助などが効果的にできるも

のと考える。また、生徒指導委員会、教育相談部会、職員会議などでP (= p l a n : 目標設定・準備) D (= d o : 実践) C (= c h e c k : 評価) A (a c t i o n : 改善) という4段階の中で全職員が共通認識のもとに研究を進め、各組織が機能する教育相談体制の構築に努めていく。

段階	P (設定・準備)	D (実践)	C (評価)	A (改善)
	◎達成目標の設定	◎目標の達成に向けての取組	◎アンケートでの結果・考察	◎課題を整理し方策を検討・実施
4月	○第1回心配事・悩みアンケート調査実施(全校生徒) ○具体的な目標	○不登校傾向生徒の情報収集及びチーム援助の立ち上げ ・SCとの話し合い		

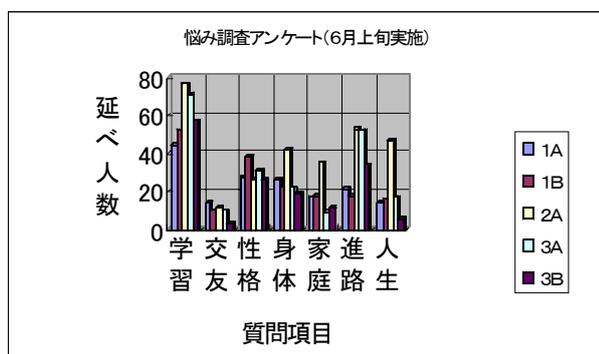
	及び計画作り			
1 学期	○担任による学級の実態把握 (全校生徒)	○相談箱の活用(全校生徒) ○心に悩みをもった生徒へのチーム援助(全職員・SC) ○不登校傾向生徒へのチーム援助 ○構成的グループ・エンカウンター実施(学級担任) ・保護者向け教育相談研修会の実施「地区別懇談会」	○達成目標及び活動の検討・評価 《生徒指導委員会》 参加者(校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・養護教諭・SC・学年代表者)	○達成目標及び活動の修正と今後の活動案検討 《校内研修等》 (参加者:全職員)
2 学期	○第2回心配事悩みアンケート調査実施 (全校生徒)	○相談箱の活用(全校生徒) ○心に悩みをもった生徒へのチーム援助(全職員) ○不登校傾向生徒へのチーム援助 ○構成的グループ・エンカウンター実施(学級担任) ・職員向け教育相談研修会の実施(校内研修:全職員) ・「ほっとルームだより」の発行(SC) ・生徒向け教育相談研修会の実施「2学期終業式」 (全校生徒)	○活動の検討・評価 《生徒指導委員会》 ○全校生徒へ第2回心配事・悩みアンケート調査結果の検討・考察 (参加者:全職員)	○達成目標及び活動の修正と今後の活動案検討 《校内研修等》 (参加者:全職員) ○実践のまとめ

V 研究の内容

1 Pの段階(達成目標の設定・準備)

(1) アンケートによる生徒の実態把握

図2 第1回心配事・悩みアンケート調査



アンケート結果は、学習、交友、性格、身体、家庭、進路、人生など、計66項目(複数回答可)での集計結果である。学習では、①不得意教科がある②成績がひどく気になる③ある先生と合わない。交友では、①かげ口を言われる②友達とうま

くいかない③何でも話せる友達がない。性格、癖では、①ちょっとしたことが気になる②怒りっぽい③落ち着きがない。身体では、①食べ物の好き嫌いがある②スタイルや顔が気になる③すぐ赤くなる。家庭では、①ときどき家出したくなる②買いたい物が買えない。③父母は分かってくれない。進路では、①進学や就職のことが気になる②受験がひどく心配③進路についてもっと知りたい。人生、社会、部活については、①自分は今のままでよいか②毎日何となくつまらない③世の中に矛盾が多い。これらの質問事項に対し、多くの生徒が悩みとして抱えていることが分かった。

(2) 具体的な目標及び計画作り

本年度生徒の実態を見つめ、生徒指導委員会及び職員会議において学校教育目標に照らし合わせて目標設定を行う。

①プラス思考

②凡事徹底

③時を守り 場を清め 礼を尽くす

これらを学校生活の中で職員、生徒共に実践していく事で活力ある学校風土の形成を目指す。

(3) 担任による学級生徒の実態把握、情報の共有
各種検査、アンケートなどを実施した結果と、
観察による見取りにより、個に応じた支援ができる
よう実態を把握する。また、留意すべき生徒の
情報を各種会議にて情報の共有に努める。

2 Dの段階(目標達成に向けての取組:実践)

(1) SCとの連携

SCが来校するのは週に一度のため、コーディネーターが必ず情報提供をするようにした。不登校傾向生徒に対する手だては、SCからのアドバイスを受けて支援を行った。生徒指導委員会、教育相談委員会の組織に入っただき、不登校傾向生徒への電話連絡や保護者や本人との面接や家庭訪問など協力していただいた。また、全校生徒との人間関係を構築するため、給食時には様々なテーブルで積極的に会話をするように努め、放課後などにも希望者には相談をしていただいた。

(2) お話希望用紙

ほっとルーム入り口へ、相談箱と希望用紙を準備しておき、相談したい人(全職員対象、友人も含む)内容について記述し、相談箱へ投函する。希望者だけでなく、心配事悩みアンケート調査での悩みの多い生徒や、日常での観察などで配慮すべき生徒を全職員より集約し、コーディネーターが日時の決定を行い、担当者と相談者へ連絡調整を行った。

図3 お話希望用紙

年 組	氏名
希望する先生に○を付ける。	内容について○を付ける。
1 校長先生 9 小野先生	1 勉強のこと 6 進路のこと
2 教頭先生 10 柄原先生	2 友達のこと 7 人生のこと
3 徳光先生 11 柴田先生	3 性格のこと 8 部活のこと
4 永峯先生 12 椎原先生	4 身体のこと 9 金品のこと
5 半藤先生 13 高桑先生	5 家庭のこと 10 通信のこと
6 細谷先生 14 林先生	11 その他
7 岡村先生 15 友人 ()	
☆気軽にほっとルームを活用してみてください。	
☆秘密は厳守されますので安心して下さい。	
☆活力ある生活をするために踏み出してみよう。	

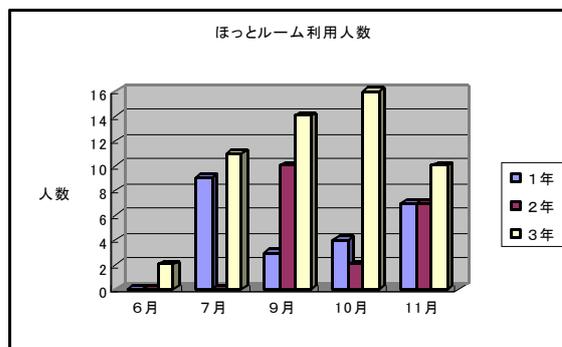
(3) ほっとルームの活用

昼休みの時間を中心に、生徒の希望する相談者(全職員対象)との相談時間をもうけほっとルー

ムにて話し合いを行った件数である。相談内容は、学習関係、進路関係、部活動関係など多岐にわたる内容であった。



図4 ほっとルーム活用実績



相談者、担当者の感想 (○生徒、◎教師)

○ (9月上旬: SC担当) ずっと前から不安だったことが相談できて、スッキリしました。私は人に悩みをうち明けるのが苦手だったけど、今回は軽い気持ちで相談できて良かったです。自分が知らなかったことや、これからどんなことをやっていけばよいか、具体的にいろいろ教えてもらえたので、少しずつこれからの生活の中で行動に移していきたいです。



○ (9月中旬: 学校長担当) 僕は、校長先生の中学校時代の部活動について話をしてもらいました。校長先生の話の中からスポーツ(部活)に対しての「心・技・体」の大切さを知り、僕に教えてくれました。今日の話大切に受け止め、一生懸命、部活に勉強に頑張りたいと思います。

○ (9月下旬: 教務主任担当) 自分が思っている事や自分の事を話せて良かったです。将来の自分のためにできれば自分の一番やりたい職業に就きたいのでまず特技が1つ2つあると良いなあと思いました。

○ (10月中旬: 1年担任担当) 先生に勉強の仕方を聞いたら、やっぱり自分のやり方でやるのが一番いいんだと思いました。苦手な教

科を集中してやるという方法でやろうと思いました。自分が思っている事をほっとルームで話せたので良かったです。いろいろなやり方を考えて、自分にあった方法でやろうと思いました。悩みが1つ解消されて良かったです。

○(10月下旬：3年担任担当)自分が今何をすべきかをよく考える機会になったと思う。

「今を頑張る」これをすれば今まで冷めてやっていた事も燃えられるんじゃないかと思う。

◎相手が職員だけでなく、友達にも相談できるため、気軽に申し込んでいるようである。さらに教員に対する相談の内容も多種多様で、相談だけというより楽しく話す機会になっていて、生徒理解にも役立っている。

◎ほっとルームで実施するため、周りに聞かれない安心感があるのか、生徒が心の内面を話してくれ、非常に良かった。

◎ほっとルームに緑や花が置かれている事でリラックスした感じで話をすることができた。やっぱり環境づくりは大切だと感じた。

◎直接的に生徒にかかわることが少ないので、違った一面が見られ良かった。自分の体験談が生徒の参考になればという思いで相談活動をしたが、聞いてもらえて嬉しかった。

◎生徒は短い時間に、身近な悩みや疑問を真剣に話題として取り上げ、とても良かった。

◎ふだんなかなか1対1で時間を取って会話をするという事は難しいので貴重な機会でした。内容的には、深刻な相談ではないことがありましたが、言葉を選んでアドバイスする大切さを同時に学べたような気がします。

(4) ほっとルームだよりの発行

月1度ペースでSCより発行していただいている。保護者用と生徒用とに分けて掲載している。第1回通信にて、SCの校内配置を家庭に周知した。ほっとルームの利用時間、方法など、「自分を大切に心理学(自分をもっと知ろう)」と題した内容を発行し、前向きな考えがもてるよう促す内容である。

(5) SCによる保護者向け教育相談研修会の実施

7月14日(木)地区別懇談会(67%参加)の機会に

合わせSCによる保護者向け教育相談研修会を実施した。「大人の接し方が変われば子どもも変わる」と題し、様々な事例や大人(親)の養育態度と子どもの状態など30分ほどの講義を行った。

保護者、職員の感想

○子どもを片寄った見方でなく、様々な角度から見て受け止めることが大切だと思った。

○様々な事例を聞くことができ、生徒の接し方に対し参考になった点が多くあった。

○子育て上の悩みはどの親ももっており、会話の仕方や関わり方など今までの自分と違った対応の仕方について知ることは、大変参考になった。

(6) SCによる職員向け教育相談研修会の実施

8月25日(木)職員会議の時間を利用し、SCによる職員向け教育相談研修会を実施した。「不登校のきっかけ、不登校対応の基本、不登校状態の継続」などの不登校に対しての内容と、構成的グループ・エンカウンターを紹介などを行った。また、「学級経営に生かす対人関係ゲーム」生徒の学級集団に入る不安や学級のメンバー側の受け入れる不安、緊張の緩和するための身体運動反応と楽しい情動反応を活用するための内容であった。

①アドジャンケン②ジャンケンボーリング③木とリス④人間知恵の輪⑤新聞紙タワー⑥くまがり

職員の感想

○生徒の不登校や問題行動では、本人を取り巻く環境が大きく影響していると実感した。

○改めて、不登校の予防、早期対応や組織的な取組の大切さを実感した。

○教師の生徒理解が重要であることは、言うまでもないことであるが、基本は生徒の可能性を最大限発揮させられる教師、生徒に自信をもたせられる教師の力であろう。短い時間であったが、意義深い講話であった。

○学級にて活用できる内容も見つかり、有意義な研修会であったと思う。

(7) 構成的グループ・エンカウンターの実施

○「私をととえと」(3年：6月上旬実施)友達や自分の人物像を検討し合い、自己を新た

な視点で見つめ直して、相互理解を深めることを目的に学級活動にて実施。

- 「自分探し」 (1年：7月上旬実施)
生徒が自己啓発の具体的な視点をもてる事を目的に学級活動にて実施。
- 「私のしたい10のこと」(2年：8月実施)
自分のしたいことを明確化する中で、自己への気づきを深め、仲間に対する親近感を深める事を目的に学級活動にて実施。
- 「私は私が好きです。なぜならば…」
(3年：10月下旬実施)
各自が自分の肯定的な面を表明することを通して、温かい学級の雰囲気と肯定的な人間関係をつくる事を目的に学級活動にて実施。

(8) 相談内容の情報共有を生かした支援・援助

学校教育全体を通して把握したことを、全職員で機会があるごとに情報の共有に努めた。また、全職員(SCを含む)と生徒との人間関係を深めるため、温かい雰囲気づくりに努めた。特に相談があった内容などに関しては、共有する「ほっとルームファイル」を利用したり、生徒指導部会や職員会議などで共通理解のもとに、学校教育活動全体を通して、生徒への効果的な支援・援助を行っていく。

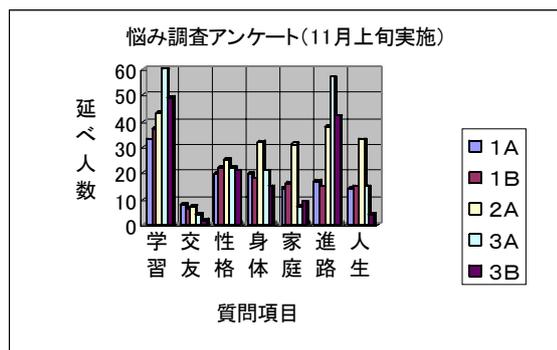
(9) SCによる生徒向け教育相談会の実施

2学期終業式(12月23日)に全校生徒対象に「自分をもっと知ろう」と題し、SCより話をしていただく。また、生活目標である「プラス思考、時を守り場を清め礼を尽くす、凡事徹底」についてもふれていただく。

3 Cの段階(アンケート結果、観察での考察:評価)

(1) アンケートによる生徒の実態把握

図5 第2回心配事・悩みアンケート調査



3年生の進路以外の項目では減少している結果となった。3年生は、高校受験を控え自分の進路選択を迫られている時期のため、不安が増加したものと考えられる。今後支援を続けていく必要がある。全職員でほっとルームを活用し、活力ある学校風土の形成に努め、教育相談してきた成果が表れている事が分かる。

(2) 達成目標及び活動の評価

生徒指導委員会及び職員会議において、第2回心配事・悩みアンケートの結果及び生徒の様子についての評価を行った。

4 Aの段階(課題を整理し、方策を検討:改善)

生徒指導委員会、職員会議にて、生徒の現状把握、活動の修正確認、今後の具体的な方策について協議確認し、共通理解を図った。また、学校生活の中で、自己目標(生活面、心理面、学習面、進路面、健康面、部活動面など)をもたせる。また、教職員全体が学校教育活動全体を通して、P、D、C、Aという4段階のステップを共通認識のもとに実践し、支援していく事を確認した。

VI まとめと今後の課題

本研究は、全職員による組織的な教育相談(生徒指導)体制の充実を目指して、心に悩みを抱える生徒を対象に、ほっとルームを拠点とした教育相談を実施するために、コーディネーターが働きかけをしてきた。また、今年度よりSCが配置された事により、保護者、職員、生徒に対しての研修会や家庭訪問など、連携を図りながらいろいろな形で関わりをもっていた。実践を進めていく中で、情報の共有と人間関係の構築を柱に進めてきたが、あらゆる場を通して生徒に働きかけていき、アンテナを高くし支援していく事によって、活力ある学校風土の形成につながる事ができたように感じる。

今後、さらにP、D、C、Aという4段階のステップを全職員が共通認識のもとに実践していく中で、協働意識を高め、個に応じたきめ細かな支援に学校全体で努めていきたい。

(担当指導主事 野村 達之)